

平成20年度後学期 学生による授業評価アンケート調査（最終）

「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部法学科		氏名	小林道生
講義コード			講義名	保険法・夜間主
開講曜日	木曜日	13・14 時限	専門科目	
授業回数	14回	休講回数	0回	補講回数 回 受講登録者数 57人
成績評価に際し注意した事項				
筆記試験では保険法の基礎について問う部分を多くしたこと。				
報告内容				
<p>声の明晰さ、聞き取りやすさ（設問1）、板書の見やすさ（設問2）の2項目以外、すべてAランクであったので、以下、この二点についてコメントする。今後、これらの点を含めて、より良い成績となるよう努力したい。</p> <p>設問1については、とくに自由記述欄で指摘をするアンケートはなかった。Aランクではないが、それでもこれに近いまずまずの結果だったのは、教室の大きさもあり、マイクを利用したからだと思う。この設問の回答分布はA+が10人で最多で、次いでBが8人、A-が7人と続く結果となったが、それをどう評価したらよいかは難しいところである。もしかしたら、この設問は授業内容の理解とも関わるのかもしれない。いずれにしても、私は地声が大きいわけではないので、この項目はいつも気に掛けているところである。とくに発言の末尾が聞き取れるよう、これからも意識していきたい。</p> <p>板書の見やすさ（設問2に対応）については、一人の方から自由記述欄で指摘を受けた。「少し薄かった」とのこと。筆圧を高くするつもりである（反面、チョークが折れないための力加減は難しい）が、そもそも黒板が汚い（全体的に白っぽい）ので、それで見にくいことがあるのかもしれない。なお、板書は色分けして白、黄色と使い分けており、これは今年度も続けていくつもりである。</p> <p>以上の授業アンケートは他者からの評価であるが、自己評価としては、シラバスで予定していたところをすべて終えることができず、それが一番の反省点である。この点は、自由記述欄でとくに指摘を受けなかったが、今後はあらためていきたい。ただ、今度は、進度や難易度の適切さなどの兼ね合いが課題となるように思われる。</p> <p>当然のことながら、夜間生の学生は働いたあと授業に通ってくる学生である。彼らにとって、授業を受けたあとの満足度、充実感が向上するよう、今年度以降も努めていきたいと考えている。</p>				

